

〈当館へのメッセージ〉

県立川崎図書館と子ども科学実験教室（くらりか）

劔持 克夫

資源に恵まれない日本が継続して発展していくためには、理科好きの児童を育成し、科学技術創造立国を推進することが必須です。そのために児童が物作りの楽しさ、面白さ、その中での創意工夫・完成の喜びを味わい、また原理・法則を理解すると共に応用出来ることなど体験し、理科好きになって欲しいと東京工業大学の同窓会（蔵前工業会）の有志が集まり、2005年に蔵前理科教室ふしぎ不思議（略称：くらりか）を結成し、ボランティア活動として出前の理科教室を開催してまいりました。

「くらりか」の特徴は、次の通りです。

1. 身近な材料で、必ず児童一人ひとりが工作・実験を行う。
2. テーマの基礎である科学的な原理や法則をスライドや演示実験で分かり易く説明。
3. 児童5～6人に1名の指導員をつけ、工作や実験での落ちこぼれを絶対出さない。
4. 児童が工作した教材を持ち帰り、家庭で実験の再現ができ、家族との科学コミュニケーションが行える。

この活動に賛同いただきました多くの主催者様（小学校、中学校、公民館、図書館、児童館、学童保育、PTA等）のお陰をもちまして、発足以来2018年11月末までに26都府県（2018年度活動中19都府県）で4,170超の教室を実施し、参加生徒数は122,500超を数えています。

その過程で2014年に文部科学大臣表彰 科学技術賞を受賞し、2018年3月に（一社）日本化学連合より化学コミュニケーション賞2017を受賞しました。

神奈川県立川崎図書館との関係は、2008年にメンバーの一人が調べ物をするために訪館したおりに、子供向けの理科教室を開催されていることを知り、担当者の方にくらりかについて説明させていただきました。担当者および責任者の方に、くらりかについてご理解いただき教室を実施させていただくことになりました。

実施しました教室は2008年度2教室、2009年度3教室、2010年度2教室、2011年度2教室、2012

年度6教室、2013年度4教室、2014年度6教室、2015年度6教室、2016年度6教室、2017年度2教室、2018年度2教室の計41教室で、参加生徒数は1,090超となっています。

実施しましたテーマは浮沈子、マグデブルグの半球、ギシギシプロペラ、備長炭電池、ポンポン蒸気船、計る、風力発電、におい・かおり、こまとヨーヨーで遊ぼう、キツツキとトコトコ馬、偏光板万華鏡、化学ペン、レモン電池、笛と音、レーウエンフークの顕微鏡、活性炭電池と多岐にわたっています。

毎回参加者と保護者の方にアンケートをお願いしております。参加者に楽しんでもらえたかについては、90%前後が楽しかったと答えています。また、保護者の一部の方から「このような教室を受けたら私も理科を好きになったのに」と同じ趣旨のお話を何度もいただきました。このような反応をいただき、活動する上で大変な励みになっています。

一部教室の様子を写真で紹介いたします。



保護者の方々も熱心に聞いています



子供の工作を見守る保護者の方々



ポンポン船の工作を行う児童



走行実験
さざなみがみえます

末筆になりますが、くらりかの活動を紹介する機会を与えていただきました、神奈川県立川崎図書館に感謝申し上げます。

けんもち・かつお
（蔵前理科教室ふしぎ不思議《くらりか》）